

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203386		
法人名	社会福祉法人 郁青会		
事業所名	グループホーム サンバード茶屋町 (こすもすユニット)		
所在地	岡山県倉敷市茶屋町早沖424 - 15		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370203386&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2ちょうめ13 - 1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成21年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で何でも言う事が出来、聞いてもらえる関係で、出来る事は職員と関わりを持ちながら本人にしてもらい、レベル低下しないように支援している
 ・仲間作りとして、行事を2ユニット合同で一緒にしたり、気候の良い時はデッキや玄関ポーチのベンチ歌を歌ったり、おしゃべりしたりして、にぎやかに過し交流を持つようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2つのユニットを結ぶ幅広いデッキ(上家付き)は、両方の利用者や職員を交流させる大きな機能を持っていて、それぞれの人間の気持ちや行動を活発にし、それぞれの利用者の持っている特技や能力を發揮・持続させてくれている。一つのユニットは利用者全員が参加して製作する立体的な貼り絵作品が伝統的で、今も健在である。もう一つのユニットは大正琴や編み物、エジソンさんの創作等、個人の特技を生かして全員で歌になったり、作品を全利用者に配ったり、豊かな心作りに役立っている。ホーム全体で行事をしたり、ボランティア・小学生が来て地域との付き合いもある。母体の理解と支援もあり、ホームは安定している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなど、職員の話し合う場で理念を思い起こす事で、日々のケアを振り返り統一を図るようにしている。	「認知症になっても、穏やかで安心できる暮らし」の理念は事務所に掲示し、日々の支援に活かす様心掛けている。管理者は、その日一日が楽しく過ごせる様にしようと何時も職員達に伝えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	子ども会の廃品回収に協力している 実習生の受け入れ(ヘルパー、大学生) 小・中学生の夏休みボランティア受け入れ 地域との交流に向け夕涼み会を催し、一般公開した 地域の祭りや、地元小学校の運動会などに招待されてかけている	花作りの上手な利用者が近所の人に花の世話の仕方を教え、近所の人から収穫した野菜や手作りの漬物を差し入れてくれる等、日常的な付き合いが出来ている。無断外出した人を近所の人から連れ帰ってくれた事もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・人材育成の貢献として実習生の受け入れ、職場体験、ボランティアとして中学生の受け入れも積極的に行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・民生委員から地域の行事の情報を教えてもらい参加する ・また日々のケアについてもアドバイスや意見をもらい参考になっている	包括支援センター長・民生委員・家族・同業事業所管理者等が出席して、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。ホームの状況や行事の報告をするうちに理解が深まり、地域行事の紹介を受け等、会議開催効果も上がっている。	会議開催の会を重ねる度に親睦を深め、ざくばらんな話し合いが出来ている。出席者からも紹介を得て、例えば派出所の巡査さん等、新しい分野のメンバーを開拓してみても如何だろう。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員の推進会議参加により、現状報告が出来たり、情報ももらったりして参考になっている	何かあれば運営推進会議にも出席している地域包括支援センターから情報を得て参考にしている。今後は市町村にも運営推進会議参加を依頼し、ホームをよく知って貰い、連携を強めたいと考えている。	ホームは、ケアサービスの取り組みや実情を伝え、市町村と協力関係を構築したいと考えている。市町村担当者も諸事情あると思うが、運営推進会議出席を是非検討して頂きたい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠は行っているが(こすもすのみ)、入居者の希望や状況に合わせて開放している。 ・外に出るのを止めるのではなく、一緒に行動するなど安全面に配慮している	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、職員ミーティングでも話し合っている。今は状態が非常に不安定な人がいるユニットのみ玄関施錠しているが、利用者の状況に合わせて対応したいと考えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待はないものの、「ことばの虐待・拘束に気をつけよう」とミーティング等で話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人についての勉強会はしていないが、制度を利用している方の後見人については職員にも周知してもらっている。後見人との連絡も密にとり、支援している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項にて説明し、理解を得るようにしている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を以前の場所から玄関の目に付きやすく、投函しやすい位置に変更している ・面会時にしっかり話を聞くようにしている ・運営会議への家族の参加をお願いし、参加してもらっている	何かあればその都度家族に相談し、面会に来た家族とも話し合っている。運営推進会議に家族も出席しているため、公の発言の場は提供出来ているが、今後は家族参加行事の後、家族会開催を検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティングで各々の意見、提案を聞く機会を設けている ・またそこであがった意見を月1回のグループホーム会議で上に伝えている	定期的な会議以外に何かあればその都度検討会議を開催し、よく話し合っている。母体法人の統括施設長は、行事や会議以外にもよくホームを訪れ、現状を把握し、運営に反映させようと努めてくれる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表、自己評価表を用いて行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・勤務年数等に合わせた外部研修への参加 ・研修案内の情報を伝え、個人的に研修に参加し、その研修内容をミーティング等で職員全員へフィードバックしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム同士のグループホーム会議を行い、交流・意見交換をしている ・管理者が他グループホームの推進会議に参加させてもらっている ・法人開催の勉強会へ参加し、向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のケアマネからの情報を取り入れ、フェースシートで情報を提示し把握に努め、不安・困っていることを理解しようと工夫している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前にホームを見学してもらい、雰囲気・環境などを理解して頂き、本人・家族の要望・不安などの想いを聴き、ホームの方針・どのような対応が出来るのかを話し合っている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・見学・面談時に家族だけでなく本人にも来所してもらったり、入居までに時間がある場合は遊びにきてもらったりしている ・ケアマネージャーから情報収集して方策を考えている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や生活のあらゆる場面で、入居者それぞれのできることをお願いしたり一緒に行ったりしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月1回発行しているたよりで報告したり、面会時や電話で報告・相談し、本人を支えていく為の協力関係を築いている ・時に本人から家族へ電話連絡したりしている(必要時は代理で番号を押し、電話を繋いでもらうまでの支援も行っている)		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・以前住んでいた家や地域へ個別外出する事もある ・以前の同僚など訪問がある時は積極的に歓迎している	誕生日には個別対応で、職員と一緒に本人の行きたい所へ出掛ける一日旅行を実施している。利用者の記憶を頼りに昔の友人の家を探したり、本人が得意だった大正琴やそろばんをする様誘う等、よく支援出来ている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の気持ち似合わせ、無理強いしない程度にフロアに誘ったり、一緒に作業(工作やお手伝いなど)できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所したり、長期入院で退去されても面会や見舞いに行き、今後の事について、特養等への相談を持ちかけたり、パンフレット等を届けたりしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・半期に一度アセスメント時(3月・9月)に本人の意向・意思確認を担当職員が行っている ・また、聴いて欲しいと希望があったり、話したそうな様子のあるときはいつでも話を聴くよう努めている	“私の気持ちシート”を作成し、日頃の会話の中から本人の口癖や好きな事・思い等を拾い上げ、全職員で情報共有し、支援に活かす様心掛けている。ケアプランにも本人・家族の言葉で意向を把握出来ていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り、率直に話して下さる方もいれば、頑なに拒否され話しながらない方もいる。本人で把握できない場合は、家族もしくは前サービスの職員の方より情報提供を受けている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・今までの個人記録を簡素化し、重要・必要な部分が一目瞭然で分かるよう特記のスペースを確保した。そこに体調等の特変・連絡などを記入し把握に努めている ・また、本人の言葉や感動・驚きなどの感情も見える記述をするよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・プラン見直し前には本人・家族にここで生活していく上での希望・意向の確認を行っている。 ・また、家族の面会時にも近況を報告し、意向・想いを聴いて本人にはその都度対応している ・ケアプランチェック表においてモニタリングを行い、随時プランの見直し、変更・追加を行う努力をしている	計画作成担当者と管理者が、本人・家族からよく話を聞いて情報を職員に伝え、皆で話し合っって介護計画を作成し検証している。毎日モニタリングを記録し、現状に即したプランになる様工夫していた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・今年度より見直した個人記録表で出来るだけ本人の言葉・意思がわかるような記述に努めた ・重要且つ情報を共有しなければならない所にはマーカーを引き、意識付けを行っている。特記に記入され、要改善事項はプランの見直しに繋がっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の現状を家族に伝え、協力してもらえることはお願いしている ・また家族の状況に応じて通院など柔軟に対応している ・出来るだけ本人のやりたい事ができ、行きたい場所にいけるよう支援している(本人希望の個別外出・買物などへの臨機応変な対応)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員には推進会議に参加してもらい、情報交換している 図書館へ行ったり、公民館行事に参加している 本人希望の個別買物・外出に近隣スーパーや理容室を利用している 		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 月2回定期的な往診をお願いし、Dr.に報告・相談する機会を設けている。そこでこまめに日常生活状況を報告している 状態に不安を感じた時は、バイタルデータを採り、電話報告して指示を仰いだり、すぐに受診したりして対応している。 	家族が掛かり付け医に連れて行っているが、困難な場合はホームでも受診介助しているので、主治医との関係は構築出来ている。定期的に往診に来て、何かあれば対応してくれる協力医も確保出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で、週1回看護師が健康チェックを行い、介護職との情報共有を行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> 入院時は当ホームでの生活の様子や既往歴等を記載した介護添え書きを持参している。 お見舞い時に状態を知らせてもらっている サマリーで不明なことはある場合は問い合わせている 		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年々重度化しているものの、看取りのケースはまだ無い。現状として、家族には同意書での確認を済ませており、段階に応じ相談していくよう予定している	現時点では該当するケースはないが、本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、家族や医師の協力が得られるならば、全職員でよく相談して、ケースバイケースだが、ホームとしては出来る限りの支援をしていきたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職者のある時期にマニュアルに添って看護師が講師となり行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、入居者にも協力してもらって非難方法を確認している	年2回、昼と夜を想定した避難訓練を実施した。業者の協力を得て通報訓練や初期消火訓練も行った。緊急時のマニュアルや連絡網も作成しているが、消防署から専門的立場の指導・助言も受けると万全だ。	運営推進会議で地域との協力体制について話し合ったり、運営推進会議で避難訓練を実施してみても如何だろうか。現状がよく判り、具体的な対策を相談出来そうだ。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入浴時は一人一人個別浴を実施し、全て服を着て整え終えるまで次の人は入らないよう配慮している トイレの場所が分からず毎回迷う方には張り紙「」で示し、さり気なく側に添って誘導を行う 	長年幼稚園長を勤めた人には、行事の後の締めあいさつを頼む等、その人のこれまでの人生歴をよく把握し、それぞれの好きな事や特技を活かす支援を積極的に行っている。个性的で活発な利用者が多い。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント時に本人の想いや希望など聞き取り記録している 散歩に少人数で行き、コミュニケーションをとっている 		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や洗濯干し・たたみ、調理手伝いなど、本人の意思に添って決めている。散歩やドライブ・クラフトの作成など提示はするものの、決して無理強いはいないようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な整髪をお願いしている 本人が着たい服など、自己決定できる方は任せている。それが難しい方には本人に確認しながら一緒に決めていく 衣類の不足や買い替えの必要のある時は家族にお願いしたり、本人と買いに出たりしている 整容については、朝の身支度は早出勤者など、職員間で取り決めている 		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> メニュー作りの際、好物を聞いて取り入れるようにしている。特に誕生日には本人の好みを聞き、献立を立てている もやしの根取り、根菜の皮むき、刻んだりの下ごしらえをしたり、配膳をしたり、下前肢、自分の食器を下洗いしてもらするなど、出来る事を自分でしてもらっている 	「サラダの野菜切ってくれたの美味しい」「わしゃ、ご飯に何か掛けるよりカレーとご飯、別々がええ」好みに配慮し、皆で助け合って作った食事は美味しい。工夫した食事と運動療法で糖尿病が改善した人もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 水分・食事量の少ない方には、水分・食事チェック表を利用し、不足しないよう一日を通して気をつけている 食卓へ職員も同席し、箸の進みが悪い時などはさり気なく声かけて出来るだけ食べてもらうよう支援している 夜間も水分を提供し、脱水症状などの予防に努めている 		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 起床時のうがい、毎食後の口腔ケアを徹底している。特に食後は毎回必ず職員が歯磨きへ誘い、見守りや一部介助をし確実に行っている 外出後の手洗いうがいを徹底している 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認しながら声かけを行ったり、介助しながらパット更新したり、失敗の確認をさせてもらったりしている	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見てさり気無く声を掛け、トイレ誘導出来ていた。トイレの場所が判らず失禁の激しかった人が、適切な声かけと“ご不潔”の貼紙の配慮で改善した事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日排便状況を確認している ・便秘時は朝牛乳を飲んでもらったり、散歩に誘っている。毎日ラジオ体操も行っている(できるだけ便秘薬に頼らない排便ができるよう心掛けている)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・出来る限り順番が不公平にならない様配慮している ・男性と一緒に日に入浴したくない女性なども折られる為、配慮している	体調に問題がなければ、本人の希望を聞きながら2日に1度は入浴する様支援している。入浴拒否の場合は無理強いせずに、タイミングをずらせたり「体重測ろう」「足洗おう」と声をかけ、その気になる様誘っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜安眠出来るように日中の活動を促す(フロアで過ごす、散歩) ・眠れないなどの訴えがあったら、そばに寄り添い話を聞くようにしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方された薬についてはその都度説明書に目を通して重大な副作用がある場合は全職員に伝達し、理解できている。 ・服薬内容に変更があれば、都度連絡帳で全職員に周知している ・薬は個人別に保存し、必要時確認している ・必要な人には直接口に入れさせてもらったり、飲み込んだ後口の中を確認させてもらったり、確実な服薬ができるよう支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・気分転換に個別外出したり、数人でドライブに出かけたりする ・本人の要望で、嗜好品を一緒に買いに行ったり、誕生日に個別外出で食べたい物を外食したりしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・誕生日には個別に外食に行ったり、希望があれば買物やカラオケなどにも出かけている ・家族と連絡を取り合い、年に数回お墓参りにいかれる人もいる ・家族と相談し、薬なども調節しながら金婚式の式典にでかけた人もいる ・遠方の故郷に帰りたいという想いの強い方には体調に合わせ、擬似帰省という形で希望に添っている ・衣替え時期に本人の希望で服を買いにでかけたりもしている ・食器洗い、調理手伝いなどそれぞれの得意な分野で役割をもってもらっている	日常的な散歩や買い物、季節の行楽や誕生日の個別外出以外に、本人の状態を見て気分転換にドライブしたり、その日その気になって出掛ける等、フットワークの良い外出支援がとても良く出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の安心や満足の為、少額の所持金をもっていただけよう家族と相談し支援している ・外出時には事務所預り金を個々の財布に用意し、それを各々が支払うようにしている 		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望時に電話をかけられるようにしている。必要があれば代理で掛け、繋いでもらうところまで手伝い、電話できるよう支援している ・年賀状の作成、送付支援を行っている 		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感のある飾り付けや、皆で作成したクラフトを掲示している ・行事やドライブなどで撮影した写真を掲示し、楽しんでもらっている ・廊下の天井に採光窓を設置しており、ブラインドで調節できるようにしている 	食卓以外に、仲よし同士がテレビを囲んで長ソファでお喋りしたり、両ユニットの間にあるウッドデッキで外気浴を楽しんだり、気分に合わせて居場所がある。自由に両ユニットを行き来出来るので、閉塞感がない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・フロアには2・3人がけのソファがありテレビを一緒に観れるようにしている ・食卓テーブルでも職員と談話できている ・デッキ・玄関ポーチにはベンチを設置し、2ユニットで交流がもてるようにしている 		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の写真、習字などの作品、植物など、本人の想うように飾ってもらう。時に手伝って一緒に飾る ・自宅で使い慣れ親しんだ家具を持って来てもらっている 	洗面所とクローゼットが備え付けで、窓からの眺めもよく、明るい感じがする。家族の写真やお気に入りのスターのポスター、自分の作った労作を飾ったりと、イス・テーブル・テレビ等を持ち込む人も居て、その人らしさが溢れていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室が分からなくなったりする事がある方に対して目印したり、トイレには紙の使用方法など、張り紙をして分かるようにしている ・フロアでの押し車の置く位置にも配慮し、転倒防止に努めている 		